

第2回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成27年7月13日(月)10:00~12:00
- 2 場 所 当別町役場 1階 大会議室
- 3 出席者 山田委員長、黒澤副委員長、川村委員、広部委員、中家委員、南部委員
原田委員、伊藤委員、和泉委員、田辺委員
- 4 説明員等 二木部長、長谷川課長、小畑係長、樺澤主事
- 5 傍聴者 4名
- 6 会議要旨

議題 人口ビジョン(案)に基づく当別町の課題の整理

<第1回委員会における質問事項に対する回答(委員の発言は第1回のもの)>

【広部委員】

- ・当別町では出産可能年齢の女性が少なく、出生率も低いということだが、人口が同規模の自治体と比較しても当別町は出生率が低いのか。

【事務局】

- ・資料1のP15のとおり、15~19歳女性人口が同規模の自治体と比較しても当別町の合計特殊出生率は低い値となっている。

【広部委員】

- ・当別町で子どもが産まれない要因を役場としてどのように考えているか、次回の委員会までに示してほしい。

【事務局】

- ・出生率が低い要因については、様々な要因が複合的に関係した結果なので明確に示すことはできないが、参考資料1のとおり、合計特殊出生率が高い「えりも町」や「別海町」では既婚者の割合が高く、当別町と比較すると20~24歳の世代、25~29歳の世代で約20ポイント以上の差となっている。参考資料1の最終ページにあるとおり、女性が20代で結婚した場合は婚姻持続期間にもよるが最終的な平均出生子ども数が1.92~2.08ということで、晩婚化の進行が要因の1つとして考えられる。
- ・また、北海道医療大学の学生が多く居住しており、平成22年の国勢調査における女性人口は15~19歳が668名、20~24歳が550名であり、その時点での町内居住の学生数は733名で、学生の男女比から女性の町内居住者数を算出すると420名となる。よって、15~19歳の女性人口の約1/3が町内居住の学生となり、これが合計特殊出生率の計算上の引き下げ要因になっていると考えられる。ただし、町内居住の女子学生を除いて逆算しても合計特殊出生率は1.12であり全道の自治体と比較しても低い値となっている。

【田辺委員】

- ・1990年から太美地区に一戸建て住宅を求めて人口が流入したという事務局からの説明があったが、一戸建て住宅を希望する若い世代が流入したのに合計特殊出生率が一貫して低下していることに疑問に感じる。婚姻率の推移はどのようになっているのか。

【事務局】

- ・(婚姻率を既婚者の割合(有配偶の女性数/女性総数)で算出し代用)資料1のP4、P12~13によれば、1990年から2000年にかけての太美地区への人口流入期において、25~44歳の世代とその子どもが多く流入しており、参考資料1の25~29歳、30~34歳女性の1990年から1995年における既婚者の割合は一時的に増加しているが、全体として合計特殊出生率は一貫して減少している結果となった。

【原田委員】

- ・当別町で若い女性が町外に流出してしまっている原因を役場としてどのように考えているのか。

【事務局】

- ・過去のアンケート結果等における町民の声としては、全世代を共通した事項として「冬期間の生活の厳しさ(除排雪関係)」「雇用の場がない」「買い物をする場がない」ということがあげられる。また、子育て世代としては「公園遊具が充実していない」「児童会館がない」「医療環境」等があげられ、生徒・学生としては「進学・就職先の理由」「飲食店・娯楽施設がない」「家賃が安くない」といったことがあげられる。こうしたことが要因となって、町外に人口が流出していると考えている。

< 質疑等 >

【和泉委員】

- ・当別町は本町地区や太美地区、スウェーデンヒルズなど、地区ごとにそれぞれ住民層が異なると思うが、学生の居住地域はどこが多いのか。

【事務局】

- ・学生の居住地域としては、本町地区がほとんどであると考えている。

【和泉委員】

- ・北海道総合開発計画の見直しを行っているが、その中で、圏域の中心都市になるような都市、地方の中心市街地、生産空間3つの基礎圏域に分けて地域を考えている。当別町においては地方の中心市街地と生産空間の2つの地域が存在しているように感じるので、そういったところは分けて戦略を立てていく必要があるのではないか。

【事務局】

- ・戦略の立て方については、当別町をそれぞれ地域ごとに分けて考えるのか、町全体として考えていくのか、分析も含めてこれから考えていかなければならない。いずれにしても札幌市に隣接していることから、圏域の中心都市ではないと考えている。地方の中心市街地的な役割を担いたいと思うが、人口も減少してきており、中心市街地的な地域は倶知安町や八雲町などをイメージするが、そういったところとも性質が違うのかなとも感じる。かといって生産空間なのかと考えると、確かに基幹産業は農業であるが、札幌市に隣接しているがゆえに都市的な文化も非常に入ってきている側面もある。当別町がどのような位置づけなのかは現時点でははっきりとしないが、このような視点も意識していかなければならない点だと考えている。

【黒澤副委員長】

- ・町民で札幌に働きに行かれている方と、町内で働かれている方とで所得の差はあるのか。

【事務局】

- ・職種別の所得の数値は資料として用意していないが、推測として差があるのではないかと実感している。次回の委員会までにわかる範囲でデータを用意したいと考えている。

< 議題に対する質疑等 >

【広部委員】

- ・人口ビジョンの話に加えて、参考資料2として総合戦略（素案）も示されたが、今後の取り組みについてどのように考えているのか。同時並行で進めていくのか。

【事務局】

- ・基本的には第2回と第3回で当別町の課題の整理ということで人口ビジョンに係る部分について議論を行い、第4回以降で総合戦略について議論していただきたいと考えている。また、今回お示しした総合戦略（素案）については、これで確定しているものではなくあくまでもたたき台として考えていただきたい。できるだけ早い段階で事務局の総合戦略のイメージを共有したほうがいいのではないかとこの考えから今回お示しさせていただいた。

【広部委員】

- ・1990年より太美地区に人口が流入したが、現在の太美地区はどのような状況なのか。入ってきた世帯がそのまま残っているのか、それともまた外に出て行ってしまったのか。

【事務局】

- ・2000年以降、全町的に人口が減少してきているというところで、本町地区、太美地区ともに人口減少が進んでいる。ただし、スウェーデンヒルズについては

人口が微増傾向にある。世帯数については微減となっており、進学や就職を機に若い世代が町外に出て行ってしまっていることが推測される。

【川村委員】

- ・業態別の分析はないのか。

【事務局】

- ・町内産業別の分析については、資料1のP16のとおりまとめているところ。ただし、このグラフは町内産業別なので町外者を含めて当別町で勤務している方の状況を反映しているが、太美地区は特に札幌に通勤されている方が多いと推測されるので、次回までに町民の産業別就業者数がわかるような資料を準備したいと考えている。推測としては、生活関連サービス業や卸売・小売業の値が大きくなるのではないかと考えている。

【田辺委員】

- ・資料や説明を聞く限り、当別町では既婚者の割合が低いという傾向がこれまでも続いていることがわかる。太美地区に人口が流入してきた時期においても既婚者の割合はそれほど上昇しなかった。独身層に対する意識調査や分析はどのようになっているのか。また、これからいろいろな施策を考えていくにあたっては、所得の傾向についてもデータ提供をいただきたい。例えば農業の特化係数が高いということであれば、農業の1戸当たりの所得が全道と比較してどうなっているのかといった傾向の分析が必要なのではないかと。

【事務局】

- ・独身層への意識調査については、人口ビジョン策定に係る町民アンケートとして今後の結婚意向やその理由についての問いを設けており、その結果については次回の委員会でお示しできるよう準備する。所得の関係については、町民のデータであれば整理が可能かもしれないが、他の自治体に照会してデータ収集ができるかどうかは疑問な部分がある。現在、賃金構造基本統計調査等の公開されている所得の関係のデータの中から活用できそうなものをピックアップしているところで、それによれば平成26年度の北海道の平均年収は約400万円となっている。ただし、所得の出生率との関係についてはわからない部分もあるので、今後さらに分析を進めていく。

【黒澤副委員長】

- ・例えば農業であれば、全体の産出額が分かればあとは農家戸数で割れば1戸当たりの所得が分かると思う。札幌で働かれている方についても同様にやれば分かると思うので、一人一人に確認する必要はないのではないかと。

【事務局】

- ・当別町農業10年ビジョンをとりまとめた際には、農業産出額の総額が78億円となっており、この時点での農家戸数が576戸であることから、1戸当たり

1354万円となる。ただし、この農業産出額の中には国の制度に基づく交付金も含まれているので、実際の作物の販売額となればこの額を下回ることになる。

【山田委員長】

- ・スウェーデンヒルズは微増ということだったが、地区別の人口増減がわかるものを示してほしい。

【事務局】

- ・次回の委員会までに用意する。

【広部委員】

- ・所得の把握にはならないかもしれないが、地域経済分析システム上で労働生産性（付加価値／労働者数）がわかるようになっているので、そうしたものも活用してみてもどうか。

【中家委員】

- ・これだけデータが揃っていて、大きな課題として人口減少、人口の流出が顕著であるということで、そこにさらに所得のデータやそれ以外のデータをさらに加えていくとなると、膨大なデータとなり、より専門的な話になってしまう。一戸当たりの農業産出額というものも重要なかもしれないが、それを追って行っても私の立場では課題が解決されない。当別の無限にある魅力を再構築していく、当別の魅力を創出していくというところでお役にたてるのではないかと考えている。これ以上のデータを頭に入れて整理していくのは難しい。

【黒澤副委員長】

- ・最終的なゴールという点では、中家委員の言うとおりだと思うが、第3回目までは当別町の課題の整理というところで、当別町のデータを収集していく時間だと考えている。

【南部委員】

- ・物事を考えていく際には、物事の目的や目標があって、それに向かって戦略を立てていくと思うが、現時点では目標感を共有できていない中で現状を把握している状態となっている。どうなりたいのかという目標に対して、今のデータや現状から施策の優先順位が決まり、具体的な施策に入っていくということになると思うが、いまやっている作業はそこにつながるものなのか、あるいは目的や目標感を作るところから考えるのがこの委員会なのか、そこは決めておく必要があるのではないか。そうでなければ、現状を整理してもその先につながらない。そして、我々が具体的な戦略策定のどこに寄与していくのかというところがそれぞれ見えない中で、データがこれだけたくさんあっても、施策を具体的に、いつ、誰が、何をするのかというところまで決まっていけない。最低でも何年までに何人にしたいという具体的な目標感が示され、それに向けた戦略を立てていく議論が必要。

【山田委員長】

- ・ 3回目までの会議は当別町の課題の整理ということで、まずは人口減少に関するこれまでの流れを把握していただくことに主眼をおいてやってきたところ。今後、数値目標等は整理していくことになると思うが、数字ありきでやるのではなくて、課題の整理に時間をかけようということが趣旨であると理解している。

【南部委員】

- ・ 現時点で目標感を共有できていないということがダメだということではなくて、この委員会は目標づくりも含めてやっていく委員会なのかどうかというところを整理したい。

【事務局】

- ・ 目的、目標感というところについては、現時点では明言することができない。この数十年間の当別町の人口動態について説明させていただいたが、かなり憂慮すべき事態が続いている。社人研等の将来推計を見ると町がなくなってしまう危険性があるということで、少なくともこれから当別町としての戦略の要となってくるのは、まず人口減少に歯止めをかけるということ。そしてその次のステップとして、町の総合計画では人口目標を2万人と想定したまちづくりを進めていることから、2万人に戻していく戦略を進めていくことになると考えているところ。ただ、2万人という目標は個人的にはかなり難しいと思っている。このあたりについては、これからまとめていただく答申の中で委員各位のご協力のもとで意見をまとめていただければと思っている。

【原田委員】

- ・ 今、事務局のほうから答えられる範囲で答えていただいたと考えているが、やはり目標感というものを示していただかないと、委員の中でまとめていただければといってもそれは出てこないのではないかと思う。今後、総合戦略づくりをしていくにあたって、具体的な施策を考えていくことになるが、参考資料2で示された総合戦略の素案を見ると、例えば交流人口増加策、定住人口増加策がいろいろ織り交ぜられていて、資料1のP19に記載されている要因は定住人口を増やすためにはという視点で作られていると思うが、他方で交流人口の話であれば、道の駅をはじめ具体的な施策が想定されている中でどういうことをやるかという話をしていかなければならないので、全体で人口目標をどうするのか、それに向けて定住人口をどうするか、交流人口をどうするかというイメージを行政のほうでたたき台でもよいと思うので、できるだけ早くお示しいただき、それをもとに議論していったほうがよいのではないかと思う。

【事務局】

- ・ 社会増減について見てみると、札幌市への転出が大きな要因となっていて、最終的な目標としてはそこが転出せずに当別町に定住してもらうことだが、すぐにそのような状況に持っていくのは難しいということで、まずは札幌市の方々に当別

町の存在を認知してもらって、当別町に来訪していただくということからはじめるということで、道の駅の施設整備に合わせて、札幌市民を町に呼び込むという取り組みをまさにやろうとしているところ。そこでは単純に基幹産業である農業の農産品を売るというだけではなくて、農産品に付加価値をつけて1．5次化、2次化、最終的には6次化を目指し、交流人口の増加から雇用の創出、定住人口の増加へとつなげていきたいと考えている。

【和泉委員】

- ・政府のミッションとしてのまち・ひと・しごと創生というのは大きく2つに分かれていて、1つは人口減少に歯止めをかけるということ。もう1つは地方創生ということで社会・将来像をつくっていくということ。今は前段の人口部分についてやっていて、少なくとも政府目標としてはどこの地域でも人口減少に歯止めをかけるような努力をしていこうということがあって、そのために地域の人口分析をきちんと行い、課題をあぶりだして、それに対する対策を考えていく時間だと考えている。その次の段階として、中家委員や南部委員の発言にあったとおり、地域の将来像を見据えたうえで総合戦略を立てていくことになると思うので、それはこの後の委員会になると思う。人口分析については、国の交付金を申請していく際の要件にもなっているので、ここは2～3回かけてやらなければならない部分だと思う。

【山田委員長】

- ・第3回目までの委員会では、当別町の課題の整理という部分で、具体的な戦略の話は4回目以降でやっていく予定でした。

【中家委員】

- ・私の感覚の中では、人口減少に歯止めをかけるということと、地方創生によって地域の魅力をつくっていくことが別物とは考えていなかった。魅力があれば町に人は増えていくものだと思う。

【和泉委員】

- ・総合戦略上は、人口の現状分析を行うことが第1段階で、人口減少に歯止めをかける中身については地方創生の段階にもかかっているものだと思う。

【中家委員】

- ・それであれば私の認識と同じでよろしいかと思う。

【事務局】

- ・人口問題については、いろいろなデータを客観的にみていただき、役場で分析している内容で足りない部分等あればご指摘をいただいた中で分析を進めていきたい。そしてその上で当別町の魅力創出に向けて考えていきたい。委員ご指摘の目標感についても、次回の会議までに何らかの形で見定めたいので4回目以降の会議でその目標に向かって話し合いを進めていけるよう準備し、人口目標について

も次回までに事務局としての考えを整理する。

【和泉委員】

- ・参考資料2として総合戦略の素案が配られたことにみなさん唐突感を感じたのではないかと思う。これを出されるのであれば、例えば前段に総合計画等の中からこれまでどういう取り組みをしてきて、それが今回の総合戦略の素案につながっているといったプロセスを、段階を踏んで丁寧にされたほうがよかったのではないかと思う。

【山田委員長】

- ・繰り返しになるが、当別町の人口減少を食い止めるためにはどうするかという部分で、当別町は年間300人ずつ減っているような現状について、グラフ等によりその要因分析を第3回の委員会まで行い、その後、魅力あるまちとして人口減少に歯止めをかけるためにどうしていくかということをも4回目以降の委員会で話し合うようなスケジュールで進めていきたい。その中には、委員から指摘のあった人口の目標数値等を示していくことも必要になってくる。

【黒澤委員】

- ・参考資料2として配られた総合戦略（素案）の内容だけではなく、各委員の考えたものも反映されていくという認識でよいか。それともこの素案が中心となって戦略が作られていくということか。

【事務局】

- ・この素案は、これまでの町長所信表明等の内容や、実際の町の取り組み内容を反映して町内部で作成したものであり、これだけでは足りない部分もあると思うので、忌憚のないご意見をいただきたいと考えている。また、記載されている内容も現時点では項目だけとなっているので、4回目以降の会議の中で各プロジェクトの内容についても説明していきたい。あくまでもゼロベースから議論を進めていくよりは、たたき台があったほうが話が円滑に進むと考え、今回お示しさせていただいた。この素案に委員会の話を誘導するものではない。

【南部委員】

- ・町長が就任されたときに、「4つの施策（ ）」というものを町民に対してコミットしたと理解しているので、「4つの施策」をいかに具現化していくかが求められていると思う。これまで2回アイスヒルズホテルを実施してきたが、その際には運営サイドとして町長の「4つの施策」にいかに寄与できるかということをもミッションとして持っていた。「4つの施策」を町民にコミットした責任を果たすという視点で考えるとこの素案はもっと意味が強いものであるべきだと思う。簡潔にまとめれば、この総合戦略をコミットするうえで、それぞれの4つのミッションの目標感がここに記載され、それについてどうリサーチをしていき、ターゲットマーケティングをどこに決めて、どんな方たちに来てもらいたいのか

というところに落とし込んでいくことが大切ではないかと考えているところ。

「4つの施策」は平成25年当別町議会9月定例会で示された町長所信表明の中にある「産業の活性化」「町に人を呼び込む」「再生可能エネルギーを活用したまちづくり」「少子化対策と教育・福祉」の4つを指す。今回参考資料2として配布した総合戦略（素案）は、町長所信表明の「4つの施策」をより具体化するために、項目の名称や具体の施策・事業の位置付けを総合戦略用に再編したものの。

【伊藤委員】

- ・次回までに人口ビジョンの目次を示していただきたい。全体像が分からないと議論もしにくいと思う。成長戦略（総合戦略）については、どういう戦略でどういうことをやっていくのかということをもとめて、実行するプログラムを作成することなのでイメージできるが、人口ビジョンのほうは、人口目標を定めて終わりなのか、それを達成するための成長戦略（総合戦略）へつながっていくものなのか、なかなかイメージが付きにくい。次回の委員会で人口ビジョンに係る部分の議論に目途をつけるということであれば、目次等の全体像を示していただいたほうがいいのかと思う。私個人としては民間の方の考えに近く、何をするかということがないと、人口に歯止めといっても難しいと思う。特に太美地区をどうしていくかというところで、人口が減らないように投資をしていくのかどうかという大きな問題があると思う。それから本町地区も含めてどのようにして地元でなるべく収入の高い仕事を作って、定住してもらえらる環境を作るかということを経営にどう盛り込むかというところが大切だと思う。町として人口減少に歯止めをかけるとしても、どういう手だてがあるのか、また手だてをするための費用対効果はどうなっているのか、そういった議論が必要になるのではないかと。いずれにしても3回目の委員会では人口ビジョンの目次を示していただいて、戦略の具体的話に入っていてもいいのではないかと。

【山田委員長】

- ・今、次回の委員会からでも戦略の具体策や当別を魅力あるまちにするためにはどうすればよいかといった話を、何年までに何人にするという目標感と併せてしてはどうかという意見があり、そのようにしたいと思うが、人口の目標を次回までに事務局で整理可能か。

【事務局】

- ・内部の意思決定に時間を要するかもしれないが、目標の方向性をできる範囲で示していきたい。できれば、人口減少に歯止めをかけるというのがどういう数字目標なのかということまで示すことができればよいと思う。

【山田委員長】

- ・総合戦略の素案についてはあくまでもたたき台ということで、これについての具体的なことは委員の皆さんの意見をもらいながら決めていくということによりか。

【事務局】

- ・現時点ではプロジェクト名しか記載されていないので、第4回目の会議までにはそれぞれのプロジェクトの取り組みのイメージについてお示ししたい。

【広部委員】

- ・今、委員長から次回の委員会までに人口ビジョンの目標値を示せますかということに対して、それは難しいというところもわかるので、人口ビジョンの全体像を示していただいて、そこに具体的な数字が入ってなくてもイメージが分かればいいのではないかと思う。
- ・今日の議題は当別町の課題の整理ということだけれども、今後議論していく上では町の強みという部分も我々が理解していかなくてはならない部分だと思う。そんな単純に出てくるものではないと思うが、地元の人が欠点だと思っていることも、外から見るとプラスになるものもあるかもしれないので、良いところや欠点を含めた特徴をたくさん挙げてみるのもいいのではないか。

(以 上)